



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

祭 高 工 応援号5

好天に恵まれた模擬店

多くの人でにぎわう

電子機械科3年は10人で一本100円の「豚串」を300本限定販売した。

リーダーの筒井良太郎君は「去年のラインナップを見て商品が被らないもので、調理

が難しくないものを選んだ。去年は焼き鳥を販売して、材

料が足りなくなったので、小野寺雅彦先生に買い出しに行ってもらった。そのため前売り150本、当日150本に限定した。最初の1時間30分で当日分の150本がすべて売れた。豚串が全部売れるとは思ってなかったの、すごくうれしかった。お客さんがたくさん来てくれたこと、準備中に来たお客さんが調理の細かいところまで見てほめてくれたのがうれしかった」と語った。

1時間半で豚串完売



機3

大量の「豚串」の注文をさばく電子機械科3年生

工業化学科3年は7人で「冷やし中華」を1カップ350円で販売した。リーダーの土佐悠喜哉君は「当日、暑くなることを予想し、必ず売れると思い、冷やし中華に決めた。具材にきゅうりとハム、わかめを入れた。より多く見えるように具材を積み上げて盛り付けた。クーラーボックスに氷をたくさん入れて、具材すべてを冷やし、お客さんに出すようにした。」

化3

盛り付けを工夫

冷やし中華は調理の過程が楽しく、具材の種類を増やして彩りをつけて美味しそうに見せたり、盛り付けを工夫したりとやるのが多く、やりがいがあり楽しかった。作った冷やし中華をおいしいと言われたときが一番うれしかった」と語った。



接客に追われる榎本琉玖愛君

焼きそばの具材を宣伝



建3

焼きそばを調理する尾谷君(左)と澤崎君

建築科3年は9人で「焼きそば」を400円で販売した。

リーダーの大高悠君は「からあげと焼きそばで悩んでいたが、調理に時間がかかるため焼きそばにした。値段が高かったのでもう少し売れるように入っている具材を宣伝した。初めて模擬店をやった、大人数の食材の準備と衛生面での大変さを実感した」と話した。

複数店舗から仕入れ

情2

「揚げたて焼き」を渡す山本創太君(左)



情報技術科2年は9人で「揚げたて焼き」を5個入り250円で販売した。リーダーの江刺蒼生君は「最初は冷やしきゅうりをしようと思ったが、保健所から止められた。友達とたこ焼きを揚げると食べたらいかがかと話した。

大盛況のかき氷



土2

接客をする土木科2年の山黒颯刀君(左)

土木科2年は9人で7種類のシロップを用意して「かき氷」を150円で販売した。

リーダーの越智勇太君は「来場者に商品を買ってほしい」と思い参加した。模擬店は初めてだったので、チーム内での情報共有がうまくいかず、かき氷を作るのに時間がかかってしまった。待ち時間が長くなったのでお客さんが不快にならないように気を付けて接客した。おいしかったと言われたのがうれしかった」と話した。

パンチのある焼うどん



鉄板を使い調理する稲留駿斗君

電気科2年は12人で「焼うどん」を300円で販売した。

リーダーの大波力哉君は「焼うどんを炭火で調理したのが特徴。焼うどんにしたのは、模擬店のメニュー内で主食になるものを作ろうと話していたから。前売り券は呼び込みをして売れたおかげで50枚ほど売れた。当日は予想以上に一般の方が来てくれ、大量に鉄板で焼いたので味の濃さにばらつきがでた。焼く量が多すぎて火が通りにくくなり、調理に時間がかかった。調理が追いつかないくらいお客さんに来てもらいとてもうれしかった。終了時間まで販売すると思っていたが、まさか材料が先になくなくなると思っておらず、先生方とクラスの皆の協力で13時過ぎに完売した」と話した。